

令和7年度

和田島小学校
「学力向上実行プラン」

学校の教育目標を踏まえた学力向上の重点目標

- ・学習規律の確立と、基礎基本の定着
- ・ICTを効果的に活用し、「主体的・対話的で深い学び」をめざした授業の実践

校長

上田 剛

学力向上推進員

関口 らな

【各校の取組状況の把握について】

管理職による授業参観や教員からの報告等、様々な機会を捉え、取組状況把握を行う。

◎次の（１）～（３）をバランスよく取り組み、学力の向上を推進

（１）知識・技能の習得

児童生徒の状況（○よさ・●課題）	具体的目標（目指す子供の姿）	具体的方策（教員の取組）	中間期の見直し	達成状況（評価）	次年度における改善事項
○基礎となる文字や単語の習得や、数の理解はできている児童が多い。 ○単純な計算や漢字練習には、意欲的に取り組めている。 ●姿勢に気をつけて文字を書く、教師や友達の話を最後まで聞くなど、根気がいることが苦手な児童がいる。 ●話を聞く力が育っていないので、視覚以外からの情報の理解に遅れていることが多い。	・よい話し方、よい聞き方を知り、身に付ける。 ・学年相応の読み書き、四則計算ができる。	・基本的な話し方、聞き方を掲示し、意識してできるようにする。 ・朝の活動や家庭学習、すき間時間に、繰り返し文字を書いたり、問題に取り組ませたりする。 ・ICTの活用をし、視覚的・体験的に学習できるようにする。			

（２）思考力・判断力・表現力等の育成

児童生徒の状況（○よさ・●課題）	具体的目標（目指す子供の姿）	具体的方策（教員の取組）	中間期の見直し	達成状況（評価）	次年度における改善事項
○学習発表会や意見発表など、発表する活動に積極的な児童が多い。 ○友達へのインタビューや自分の考えを伝えようとするができる児童が多い。 ●友達の意見と自分の意見を比べたり、教師の言葉を聞いて自分の考えを深めたりする力が十分に育っていない児童がいる。	・友達の意見と自分の意見を比較・検討することでよりよい考えを見つけ出すことができる。	・思考ツールなどを利用し、一つのことから多くのことを考えるなど、考えを深める機会を増やす。 ・ペア・グループでの学習を取り入れ、互いの意見を比較できる機会を増やし、振り返りを徹底する。			

（３）主体的に学習に取り組む態度の育成

児童生徒の状況（○よさ・●課題）	具体的目標（目指す子供の姿）	具体的方策（教員の取組）	中間期の見直し	達成状況（評価）	次年度における改善事項
○興味のあることには、積極的に取り組むことができる。 ○好奇心旺盛で、活動を含む学習への意欲が高い。 ●課題に面したときに、解決策を考えるよりも、短絡的に行動してしまい、粘り強く取り組むことへの苦手意識がある。	・課題や生活面で見通しをもち、自ら目標を立て、目標達成に向けて努力することができる。 ・読書に親しみ、自ら学ぶ楽しさに気づくことができる。	・ICTを活用し、自分のペースで学習を進めたり、復習したりできるようにし、自ら学ぶ楽しさを味わえるようにする。 ・朝の活動での読書や週末読書を継続して行い、読書量を増やす。			